

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒101-8228

住 所 東京都千代田区神田猿樂町2-8-8

氏 名 大林道路株式会社

代表取締役社長 福 本 勝 司

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	大林道路株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区小島町8番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	17	石油製品・石炭製品製造業
主たる事業 の内容	アスファルト混合物の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,641	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
		電話番号	
		FAX番号	
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2020 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度 ( 2018 年度)	第1年度 ( 2019 年度)	第2年度 ( 2020 年度)	第3年度 ( 年度)	目標排出量
排出量 ( t-CO2)	(実) 4,597 (調) 4,568	(実) 5,418 (調) 5,390	(実) 5,020 (調) 4,949	(実) (調)	(実) 4,551 (調) 4,522
削減率		(実) -17.9 % (調) -18.0 %	(実) -9.2 % (調) -8.3 %	(実) % (調) %	(実) 1.0 % (調) 1.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	原単位等の単位				
	基準年度 ( 2018 年度)	第1年度 ( 2019 年度)	第2年度 ( 2020 年度)	第3年度 ( 年度)	目標とした値
排出量原単位等の値					
活動量の値					-
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	2019年度の当社の川崎市内に所在する川崎アスファルト混合所における合材生産量は大型工事に出荷対応したことにより2018年度(基準年度)に対して40%増となり、都市ガス使用量も基準年度8.99m <sup>3</sup> /tに対し9.62m <sup>3</sup> /tと増加し、温室効果ガス排出量は基準年度に対し17.9%増となった。
第2年度	2020年度の当社の川崎市内に所在する川崎アスファルト混合所における合材生産量は前年度同様に大型工事に対応したが2019年度に対し微増に留まり、都市ガス使用量は8.86m <sup>3</sup> /tと前年度、基準年度よりも下回り、温室ガス排出量も基準年度には届かなかったが、対前年度8.7%減となった。
第3年度	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境管理計画を策定し、PDCAサイクルを適切に運用する。</li> <li>2. 従業員に温室効果ガス削減のため、勉強会を実施し、意識の高揚を図る。</li> <li>3. 事業所内で稼働する重機のアイドリングストップを実践するため、日々の始業前朝礼で繰り返し伝達する。</li> <li>4. アスファルト合材の連続出荷により、燃費改善を図り、製造単位当たりの都市ガス使用量を削減する。</li> <li>5. ヒーターの温度調整、使用時以外切る等不要電力の削減に努める。</li> <li>6. 毎月第二週目土日連続閉所の実施により、温室効果ガスの削減に努める。</li> </ol>
<p>第1年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員への教育 所内の定例会議で全従業員に温暖化対策の教育を実施した。</li> <li>・ヒーターの温度調節 使用時以外は切る等節電を徹底した。</li> <li>・毎月第二週目土日の閉所を実践した。</li> </ul>
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員への教育 全従業員に対し所内の定例会議で温暖化対策の教育を実施した。</li> <li>・事業所内で稼働する重機のアイドリングストップを実践するため、日々の始業前朝礼で繰り返し伝達した。</li> <li>・アスファルト合材の連続出荷により燃費削減を図り、製造単位当りの都市ガス使用量の削減に努めた。</li> </ul>
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ( )		
その他 ( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
	なし	

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ( )	×
EV、PHV、FCV	×	その他 ( )	×

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	1. 自動車の新規購入・更新にあたっては、ハイブリッド自動車などの低燃費車両を原則とする。 2. エコドライブを実践するため、簡易マニュアル等を配布するなど、従業員に対するエコドライブ教育を継続する。
第1年度	1. リースアップ連絡車をハイブリッド自動車に更新した。 2. 工場全エコドライブの実践(ムダなアイドリングを止める。カーナビの活用により、渋滞を避けるなど。)
第2年度	1. リースアップ連絡車をハイブリッド自動車に更新した。 2. 工場全エコドライブの実践(ムダなアイドリングを止める。カーナビの活用により、渋滞を避けるなど。)
第3年度	

6 基準年度からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	4,597 t-CO <sub>2</sub>	5,418 t-CO <sub>2</sub>	5,020 t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
原油換算エネルギー 使用量	2,338 KL	2,767 KL	2,641 KL	KL
事業所の数	1	1	1	

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
川崎アスファルト混合所	川崎市川崎区小島町8番2号	4,597	5,418	5,020	

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度